

努力の集大成

明見中学校 宮下 快偉

今回のコロラド姉妹都市派遣によってたくさんの様々な貴重な体験をさせていただきました。その中でも心に残ったことが3つあります。まず、1つ目は、ホストファミリーと一緒に過ごすことによって、日本とアメリカの生活の違いがわかりました。例えば、アメリカの家のほとんどが地下室を持っているということです。私の泊まった部屋は地下室でトイレやテレビもあり、とても快適でした。私たちのホストファミリーは、育ち盛りの子どもが3人もいたのでとても大変だったと思います。そのなかでも私たちのために、動物園やロッククライミングなどに連れていってくれたり、時間を割いてくれたことにとても感謝しています。コロラドはとても自然が豊かで過ごしやすかったです。ロッククライミングが一番やりたかったことのひとつでした。最初は登るのは大丈夫でしたが、下りるのがとても怖かったです。しかし、とても楽しく思い出に残りました。

2つ目は、街の人々がとても明るくフレンドリーで、全く見ず知らずの私にも親切でした。お金を出すのに困っているときに、一緒に小銭を探すのを手伝ってくれました。そのほかにも英語がわからないときに翻訳機を使い一生懸命コミュニケーションをとってくれ、とてもうれしかったです。私も、困っている人がいたら優しく助けられるようにしたいです。

3つ目はポットラックで富士吉田市の紹介とソーラン節を踊ったことです。19名の派遣団の人たちが、顔も見たことがない初めての集まりで、みんなと仲良くなれるのかとても心配になり、ソーラン節も成功させることができるのかと思いました。しかし、5回の事前研修に参加することで、みんなと仲良くなり、私たちの努力の集大成ともいえる、すばらしいソーラン節を披露することができました。本当に良かったです。ホストファミリーやポットラックに来てくださった方々にも好評だったので、とてもうれしく、力強い日本をアピールすることができたと思います。私たち19名の絆が深まった瞬間でもありました。

今回の私の姉妹都市派遣の大きな目標として、1つにはアメリカの生活や人々の様子などを知ること、2つ目として、少しでも英語を話してコミュニケーションを取ることでした。今までの旅行では、ホテルに泊まって、非日常的な生活を送り、有名な観光地をまわることで、その土地のことを知ったつもりになっていました。今回は、ホームステイを経験できたことでアメリカ人の一般的な日常生活を見て、そこで過ごしたことは、アメリカの人々の日常的な生活を知ることができ、とても良い機会になりました。

このような経験ができたのは私たちには知りえない積み重ねられた努力があつてこそだと思いました。中学3年生の今だからこそ吸収できたことがありました。これから進学し、いずれ社会人となり、大人の仲間入りをすることになりますが、コロラド・スプリングス

派遣団の一員としての得られた人々の優しさ、文化の違いなどをしっかりと忘れずにいたいと思います。そして、この経験を活かしていきたいと思います。

最後に、姉妹都市派遣を実現させてくださった富士吉田の職員のみなさま、コロラド・スプリングス市のみなさま、学校の先生方、そして家族に心から感謝します。